

地域 担い手 サボ・センだより

J Aグループ山形

J Aさがえ西村山管内のサクランボ生産組織でつくる、さがえ西村山さくらんぼ部会(2018人)は、2016年度からJAグループ山形「地域ぐるみによる園芸産地づくり支援事業」を活用し、大玉の晩生種「紅秀峰」のトップブランド産地を目指している。3年木の大苗導入で早期成園化を図る。

### サクランボ産地強化 さがえ西村山

額を倍以上の7億2000万円とするのが目標だ。20年までには150畝に拡大し、質・量共にトップの「紅秀峰」ブランド産地の座を不動のものとする。早生種「紅さやか」と中生種「佐藤錦」「紅秀峰」の割合を1対6対3とすることで全体の収穫期間を延ばし、労働力を分散。加温、無加温栽培とも組み合わせ、長期有利販売にもつなげる。部会長の秋場尚弘さん(62)は「夢実現のために、JAはもちろん、行政などとも連携し、団地化を進めていく必要がある」と話す。地域ぐるみによる園芸産地づくり支援事業は、JAグループ山形が16年度から3カ年事業で始めた「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」の一つ。3年間で総額1億円を助成する。現在、県域を含め、11品目、17の支援事業が進行中だ。

事務局を担う地域・担い手サポートセンター監理役の小池清之さん(58)は「この支援事業が、ぜひ実りあるものになってほしい」と力を込める。

# 「紅秀峰」増産を支援



「紅秀峰」の園地で夢を語り合う秋場さん④と小池さん

「紅秀峰」育成には、競争力の高い「園芸大国」を目指す県も力を入れており、夢が膨らむ。